

# 最終成果報告書

## 【基本情報】

報告者氏名: 島田沙織(小島美和)

所属: 大阪府東大阪市立弥栄小学校

貸与機器(使用機器): iPad, iPhone, Apple watch

報告書記録日: 令和6年2月26日

キーワード: 通級指導教室、通常の学級への般化、学習用具のデジタル化

## 【対象児の情報】

R5.4~R5.10

・学齢: 小学2年生

・障害と困難の内容 複数回答可(複数回答の場合には主たる障がいは◎をとってください)

その他 ( 学習障がい )

R5.10~R6.2

・通級指導教室に通う児童 23名

## 【実践研究活動の進捗】

・対象児のねらい

①自分に合った学習方法を知り、それを用いて学級で学習を行うことができる。

②自分の力でできることを増やして自信につなげ、自発的に行動できるようになる。

③安心して、自信を持って新しい学校へ転出する。(R5.9 追記)

・対象児転出後のねらい(R5.10 追記)

④通級指導教室での自立活動を通して、通常学級における活動の困難を軽減する。

・実施期間: 令和5年4月から令和6年2月

・実施者: 島田沙織

・実施者と対象児の関係: 通級指導教室担当

## 【実践研究活動の内容と対象児の変化】

### ○対象児の事前の状況

#### 児童の実態

・家庭では母親が中国語、本人が日本語で会話をしており、親子間の使用言語が異なっている。簡単な日常会話は可能である一方で、複雑な事情背景の説明に困難があり、意思疎通が難しい場面が見られる。

・入学時より日本語の指導や習得に課題が見込まれる児童として日本語指導加配教員による見守りを行っていた。

・入学後、授業中の困り感が表出し、特に数の認識やひらがなの習得に遅れが見られたため、1年生2学期より日本語指導加配教員による個別指導を実施し、算数の教科指導を通した日本語指導を週3時間行った。

・しかし、学習活動のあらゆる場面で定着に時間がかかることが多く、それが母国語の違いからくるものなのか、本児の特性からくるものなのかが明確でなかったため、2学期後半より他校の通級指導教室の巡回指導を週1時間受けることとなった。

・ひらがなの読み書きや自分の気持ちをことばで伝えられるようになることを目標に、ひらがな指導を中心に指導を行ったが、週1時間では十分な指導を行えず、本児の困難の原因がどこにあるのかをつきとめるまでには至らなかった。

・2年進学時に自校に通級指導教室が設置されたため、現在は一日1時間算数の時間に通級指導教室にて自立活動及び教科の補充を受けている。

- ・学校内で会話に困っている場面は見られないが、語彙が少なく、説明する場面で状況が伝わりにくいことがあった。
- ・学習は意欲的に取り組み前向きであるが、定着し辛い状況は続いている。周囲を観察し模倣することは得意であるため、活動や学習の意味を理解しながら活動できるよう補助することや、幼少期からの経験不足を補っていく必要があると思われる。

### 困難の内容

#### ◇読み

- ・清音については大半読めるようになっている。濁音についても悩みながらも正解を選択できるようになってきた。拗音は子音の認識が乏しい。
- ・拾い読みの段階にあり、自力読みでは単語や文章の意味理解までつながらず、つながったとしても相当の時間がかかる。
- ・ひらがな・カタカナが未習得のため、読むことを諦め周囲の状況から判断して行動することが多い。
- ・デイジー教科書を用いて音読の宿題を行っている。繰り返し聞くことで内容の理解につながっている。
- ・漢字に対して親しみが有り、ひらがなよりも漢字で表記されている方が読みやすさを感じている。

#### ◇書き

- ・視写は抵抗なく行うことができる。
- ・ひらがな・カタカナを想起して書くことに時間がかかる。定着していない文字を思い出す際は、「りんごのり」など、イメージから引き出そうとしている。
- ・半濁音については聞き取ったことを濁音として表記することがある。
- ・自分の名前など、書く回数が多いものについては迷いなく想起し書くことができる。
- ・新しい漢字を知ることや習った漢字を書くことを楽しく思っている。
- ・文章を書くことに対して苦手意識がある。同様の質問の答えを口頭で求めた際は自分の思いを伝えることができるが、文字にする段階で手が止まってしまう。
- ・代替手段としてフリック入力にも挑戦したが、五十音の中から文字を選ぶことも難しいため、現在は音声入力へ移行して方法を模索している。

#### ◇算数

- ・3までの数は数字・音・数量のイメージがついているが、それより大きい数は数列を音で覚えている。
- ・増減が2までであれば暗算できるが、それ以上大きい数になる場合は指を使って順に増やしたり減らしたりしながら計算している。
- ・日付や時間など幼少期に生活の中で身に着ける感覚に遅れが見られる。

### ○活動の具体的内容

- ① 自分に合った学習方法を知り、それを用いて学級で学習を行うことができる。
- 未習得事項への苦手意識をなくし、楽しく学習するための取り組み

#### ◇読み



あいうえおにぎり

アイウエオにぎり

ひらがなトレーニング

- ・文字と音の一致を習得するため、ウォーミングアップとして毎日授業の冒頭に「あいうえおにぎり」「アイウエオにぎり」を使用した。

・清音、濁音の区別が付き始めると小さい「や」「ゆ」「よ」や「っ」がつく言葉があることにも気付き、文字への興味がより深まっていったため、前述のアプリから「ひらがなトレーニング」に移行し、拗促音の学習に取り組んだ。

#### ◇算数



・数の概念の獲得と計算力の向上のため、ウォーミングアップとして毎日授業の冒頭に「ひよこ暗算」を使用した。また、時間の概念習得のため、同様に「ドラゴンウォッチ」を使用した。

・夏休み期間中はGIGA端末で家庭学習を行うため、同様の内容が見込め、GIGA端末にダウンロード可能なアプリとして7月上旬から「暗算マン」に移行した。

・2学期に学習予定の九九に興味を示したため、「九九マスター」をダウンロードし、九九表の見方を学習した。九九の概念などはまだ未履修であるが、九九表を見て答えることで必ず正解できることや正解することでキャラクターを集められることで「暗算マン」同様夏休みの家庭学習として積極的にアプリを楽しんでいた。

#### ●読みの負担感を軽減するための取り組み、書くことへの苦手意識軽減のための取り組み



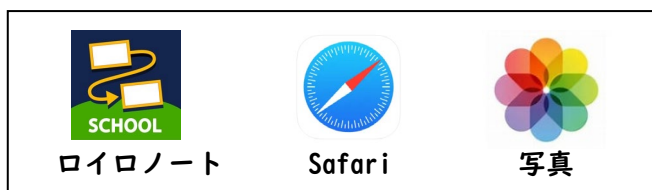
・1年生時に引き続き、音読の宿題の代替として「シャベる教科書」を使用した。音声情報を得ることで内容理解につながることを実感し、内容がわかることが音読の負担感軽減につながった。

・プリント教材やテスト用紙では、「カメラのOCR機能」と「音声読み上げ」を使用した。

・よく使用する教材については、「ロイロノート」に音声付のカードを送付し、いつでも繰り返し見ることができるようにした。

・学級でのふりかえりにつなげるため、通級指導教室で毎時間、めあてとふりかえりを「ロイロノート」のカードに音声入力して記入し提出した。

#### ②自分の力でできることを増やして自信につなげ、自発的に行動できるようになる。

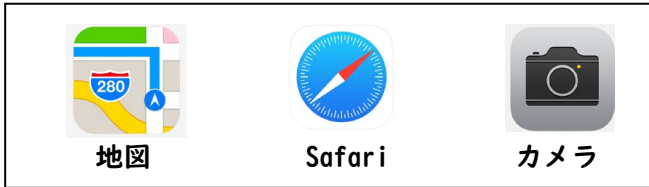


・困りごとに直面した際、読みの負担軽減や書きの負担軽減で活用した機能をどう活用するか指導者と相談しながら活用していった。

・語彙や経験に乏しいため、わからないことは「Safari」を使用して調べるようになった。その際、読み上げ機能も併用した。

・今後も必要であると感じたものは写真アプリに保存し、好きなタイミングで何度も見られるようにした。

③ 安心して、自信を持って新しい学校へ転出する。



・9月に突然、引っ越しと転出が決定した。当初の予定を大幅に変更し、対象児が安心して転出することが第一の目標となった。

・転出に対するイメージが漠然としていたため、転出先の学校や新居について「Safari」や「地図アプリ」で調べ、どんな準備をしていけば安心できるかを話し合った。

・転出先で自分を知ってもらいたくさん友達を作るため、自己紹介を練習した。練習風景をビデオに録り、何度も見返すことができるようにした

○対象児の事後の変化

①自分に合った学習方法を知り、それを用いて学級で学習を行うことができる。

●未習得事項への苦手意識をなくし、楽しく学習するための取り組み

・入学当初から学習に対する意欲があり、与えられた課題に真剣に取り組む姿勢は見られていたが、アプリを活用した学習を始めると、「やらないといけない」という意識が「楽しいからやりたい」に変化していった。数をこなすことで見覚えのある文字や数式が増えていき、さらなる「やりたい」意欲に繋がっていった。

・学年当初は問題ごとに正解かどうか指導者に確認する場面が多く見られたが、最後まで取り組んだあとに「終わったよ」と報告するようになった。アプリの中にはヒントを表示してくれるものもあり、不安に感じた時に確認する術があることが安心につながっているようであった。自分一人で問題に取り組んでいるという実感を持てることが、より自信につながった。



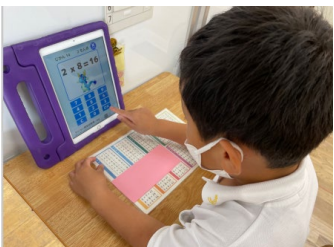
◇文字

【あいうえおにぎり、オイウエオにぎり、ことばのトレーニング】

・ひらがな、カタカナ共に、清音・濁音に関して、文字と音の対応はほぼ習得できている。拗音はや・ゆ・よの聞き分けができるようになり、聞いた語句の正しい文字を選択できるようになった。書きに関しては音声入力を中心に行ったため、時間のかかってしまう書字への負担感は未だ大きい。

・身近な語句に関しては言葉のまとまりでとらえることもできるが、初見のものに関して

はまだ逐字読みの段階にある。



◇算数(数の認識、たし算、ひき算)

【ひよこ暗算、暗算マン、九九マスター】

・短時間に多くの問題が解けるようになった。計算の際は足す数(引く数)を指で表して増減しているが、以前は数列で唱えながら指を出していたものが、数をこなすことで瞬時に指を出せるようになった。指を使わずに答えが出せる式もあり、指を出した後で「なくてもできる」と言って手を引く場合もある。

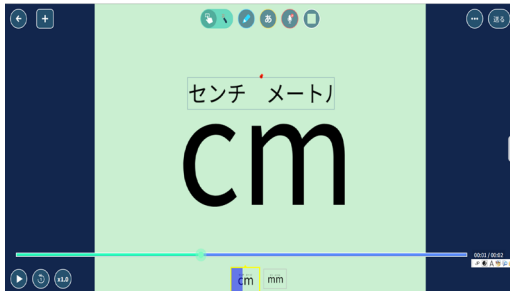
・答えが20より大きくなる計算については、プリントを使用して繰り上がりや繰り下がりのある計算にも取り組んだ。

●読みの負担感を軽減するための取り組み

・これまで、「文字を読むこと」だけでなく「誰かに助けを求めること」が大きな負担だった。読み上げてもらうことが内容理

解につながることは分かりつつも、助けを求めることが出来ず取り組みなかつた課題も多数存在する。音声読み上げを使用したことで、気兼ねなく何度でも自分のタイミングで読み上げに頼ることが出来、難しいと感じる課題にも一人で挑戦してみようという思考が生まれた。

・音声で確認できるカードが手元にあることで、単位や日付・曜日など、語句と音声がつながらないために定着してこなかつたものが徐々に定着していった。



#### 【ロイロノート、音声読み上げ】

・音声カードや写真などを困ったときに見返すことができ、安心感につながった。



#### 【カメラの OCR 機能+音声読み上げ】

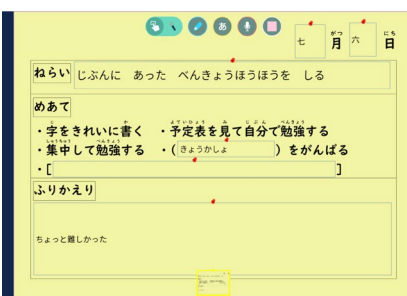
通級指導教室にて、学期まとめテストを実施した。

指導者はそばに控えていたが、計算問題など一人でできると感じたものに関しては手助けなく一人で取り組んでいた。文章題など長文を読む必要がある場合も、自ら iPad を取り出して使用し、問題に取り組んでいた。

#### ●書くことへの苦手意識軽減のための取り組み

・音声入力にしたことで、短時間でたくさん書けることに気づいた。想起に時間がかかり、何を書こうとしていたか忘れてしまうことも多かつたため、話した内容がそのまま文章に起こされることで単語の羅列だつたものが少しずつ文章として成立していった。

・音声入力したものは履修していない漢字が使用されることも多かつたため、読み上げ機能も並行して使用した。習っていない漢字に興味を持ち、以前使われていた未履修の漢字を自力で読むこともあつた。



#### 【ロイロノート】

・めあて、ふりかえりを毎日音声で記入した。繰り返し行うことで文に型があることに気づき、短時間で記入できるようになっていった。

#### ②自分の力でできることを増やして自信につなげ、自発的に行動できるようになる。

・学習のルーティンが定着し、また、一人でできるという自信が芽生えたことで、通級指導教室での学習の準備や活動を指導者の手助けなしに始めることができるようになった。

・GIGA 端末の iPad と「魔法のプロジェクト」の iPad で使用できる機能に違いがあるが、困りごとに直面した際にはどちらを使ったほうがより自分の助けになるか考えて使い分けているようである。

・夏休みはプリントつづりのほか学期中に使用した計算アプリやカタカナアプリを課題に出した。ロイロノートを使用し、指導者から定期的に連絡は入っていたが、見てはいるもののやりとりをするには至らなかつた。学習は日常的に取り組めた

ようで、アプリ内で集められるキャラクターを喜んで休み明けに見せてくれた。

### ③安心して、自信を持って新しい学校へ転出する。

・「新しい家ができる」「自分の部屋がある」と引っ越しに対しては良いイメージを持っていたが、「引っ越しても電車を使って今の学校に通えるのではないか」「東京ってどこ?」と疑問も多く持っていた。地図アプリで大阪との距離を確認し、電車で通うのは無理そうだと実感したところから、対象児にとって「転出すること」が現実的なものとなっていった。

・引っ越し先の観光地や名物、新居や転出先の学校の外観など、気になるものをどんどん自分で調べた。学校のホームページを発見し、現在使っている iPad から chromebook に変わることが分かったため、ひらがな表などの教具や使用していたプリント補助教材を次の学校に送ることを決めた。

・「自己紹介カード」を記入しながら、自己紹介のセリフを考えた。出てきた項目の中から自己紹介で使えるものを選び、最後は「友達がたくさんほしいです」にすることを自分で決めた。始めは文字を追いつながら練習していたが、自発的に家庭でも練習し、すぐにセリフを覚えることができた。ビデオに映る自分を見ながら、改善点や良いところを見つけ練習に反映していた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### <主観的気づき>

○わかるって楽しい、一人でできるって嬉しい

「できない」「わからない」が積み重なり助けを前提として自発的な活動が減っていた対象児であったが、わかることが増えるにつれて活発に学習に取り組めるようになった。アプリなどの正答数が増えたり、タイムが縮まったり点数が上がったりしたことはもちろんだが、読み上げ機能を活用して単元テストに一人で取り組めた時の表情が何より印象に残っている。「わかる」だけでなく、「誰かの手を借りずに一人で取り組める」ことが、大きな自信につながることを実感した。

○自分の言葉で伝えたい

転出にあたり、自己紹介を考えたり、お世話になった先生や友達に手紙を書いたり、自分の思いを書く機会がぐんと増えた。自分の思いを伝えることに苦手意識を持っていたが、転出をきっかけに「(自己紹介で)友達がたくさん欲しいって言いたい」「〇〇先生にも手紙を書きたい」と伝えたいこと、伝えたい相手がたくさんあることを自分から言い出すことができた。読めるひらがなが増えた自信と、伝えたい思いの大きさが、書字への抵抗感に勝っていたようであった。

#### <エビデンス>(具体的数値など)

○想起できるひらがなが増えた。

1年生時と転出前に「ひらがな単語聴写テスト」を用いて、単語聴写の誤答分析を行った。

	清音	濁音	半濁音	撥音	拗音	長音	拗長音	促音	拗促音
R5.1	36%	41.7%	100%	70%	100%	80%	100%	100%	100%
R5.9	8%	8.3%	0%	0%	0%	20%	20%	60%	100%

(数値は誤答割合)

1年生時はひらがながほとんど入っておらず、「くま」「うさぎ」「どんぐり」の3つを正しく書けたのみであった。特に語尾の清音や、特殊音節全般はわからない場合に記入する「○」で埋めているマスも多く、読み書き困難が顕著に表れていた。

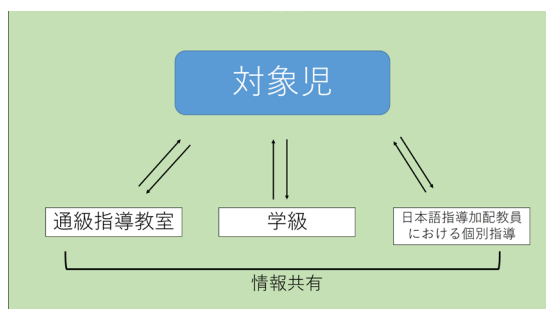
通級指導教室では主に読みの訓練や「ひらがなトレーニング」を用いた選択式の問題に取り組んでいたため、書字の訓練はほとんど行っていなかったが、転出前の9月には、ほとんどのひらがなを想起できるようになっていた。特に拗音は誤答がなかった。その反面、促音に関しては依然間違いが多かった。

## ・ここまで得られた考察

元々学習意欲は高く、何事にも真面目に取り組む本児であったが、不安げな発言が多かった年度当初に比べると言葉の端々に自信を覗かせるようになってきた。幼少期からの経験不足からくる日付や時間などの感覚の遅れも日々の活動の中で少しずつ定着している。その結果、「いつ」「どこで」「なにが」「どうした」などを意識して会話や説明ができるようになり、意図したことが相手に伝わる経験を積むことができています。

学習面での知識の定着も進み、数の認識や文字の習得を実感できるようになってきた。何より、「一人でできる」という経験が自信や喜びにつながっているようである。

その反面、通級指導教室で自発的に行えることが、通常の学級ではなかなか行えないという現状がある。「読めない」「書けない」という場面に出会うことは同じではあるはずが、通級指導教室では機器の助けを得るという行動につながるどころ、通常の学級では人の助けを得なければならない(が、できない)に留まってしまっていた。

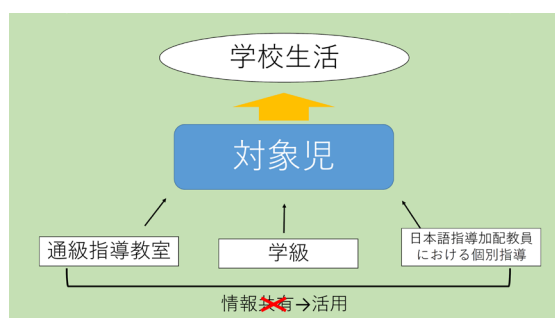


### 現在の状態

それぞれの場所で得た能力は、あくまでその場所でのみ活用できるものという認識から抜け出せていない

読み上げ機能や音声入力を扱う能力はあるものの日常的な活用に至っていない現状は、対象児に関わっている学級担任、日本語指導加配教員、通級指導教室担当のそれぞれの指導者が、本人に必要であると思われる技能の習得に至る支援をそれぞれが並列で行っていることが主たる原因であることが考えられる。通級指導教室で学んだことは通級指導教室でのみ使用できるスキルで、ほかの場所で使用するイメージを本人に持たせることができていなかった。本人にそのイメージがなかったことはもちろんであるが、同様に教員の側も本人が持っているスキルを各場所で使用しやすいよう授業を設定することができていなかった。

習得したスキルを「どのような場面で」「どのように活用していくのか」という具体的なイメージが持てるようにすること、また、それぞれの場所で自然とそのスキルが受け入れられる環境づくりが急務であると感じている。



### めざす姿

学んだことを使って学校生活をよりよいものにしていくためには、情報共有だけでは不十分

## ・事例を通して

インターネット記事の中に読めない漢字があるときや長くて読むのが大変な文章に出会ったときなど、日常な些細なことでも ICT 機器の助けを得れば楽になる場面は多数存在する。しかし、ICT 機器の扱いに明るい教員もいれば得意とは言えない教員もあり、教員の所持するスキルの違いに応じて活用頻度が変わってしまうことがあった。どんな教員でも取り組みやすい具体的事例を提供しながら、便利な機能を日常的に使っていきこうとする雰囲気を作っていくことが大切であると感じた。

一番の願いは、身に着けた能力を学校生活や日常生活の中で発揮し、児童が困り感を軽減してよりよい生活を送っていくことである。児童の実態を正確に共有し、能力を発揮できる場を教員間で協力して設定していきたい。

**【対象児転出後の取り組み】**

④通級指導教室での自立活動を通し、通常学級における活動の困難を軽減する。

本校の通級指導教室は R6.2 月時点で23名が所属しているが、対象児と共に取り組んだ内容は他の児童にも活用できるものが多かった。そのうち5名に焦点を当て、対象児と学んだことを活かしつつ児童の特性に合わせて年度末まで取り組んだ内容を報告していく。

**A (1年男子)**

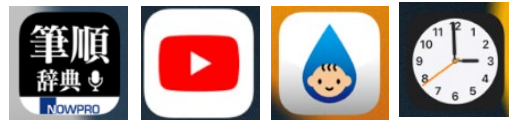
**【経緯】**

入学後まもなく、ひらがな学習においてマスを意識して正しく書字できない、色塗りで枠をはみ出して塗ってしまうなどの困難が見られた。通級指導教室にて週1時間自立活動を行っている。

**【困難の内容】**

- ・マス内の十字リーダーが書字の妨げになり、どこに書字すれば分からなくなる
- ・想起した通りに書字できない・ハサミがうまく使えないなど、手指が不器用
- ・気が散りやすく、集中力が続かない

**【具体的活動】**



新筆順辞典 YouTube DropTap 時計  
(ストップウォッチ)

- ・コミック会話 ・5W1H
- ・十字リーダーの削除 (画像処理)
- ・ミチムラ式漢字カード

**【個別指導での成果】**

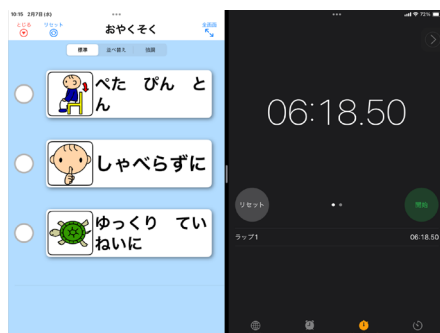
・十字リーダーを削除した用紙を作成し、ワークに貼付して活用した。十字リーダーで区切られた小さい四角をマスとして認識していたが、数回訓練したことでマスに大きく書くことを意識できるようになった。

・『筆順辞典』『YouTube』を活用し、アニメーションや動画で字形やハサミの使い方を学習した。映像で見ながら一緒に書字したり活動したりすることで、正しい字形や使い方との違いに気を付けることができるようになった。

・『ストップウォッチ』と『DropTap』で作成した集中するための約束 (姿勢・静かに・丁寧に) を SplitView で表示し、課題に集中して取り組んだ時間を自分で確認できるようにした。おしゃべりするとカウントが止まってしまうため、静かに課題に取り組もうとすることができた。



△十字リーダーの削除。入学当初はマスの捉えが不明瞭で、どこに書けばよいか分からなくなっていた。次第にマスの捉えが明瞭となり、現在は通常のワークやノートを使用して学習している。



◁ 「お約束」と「ストップウォッチ」の二画面表示 (SplitView) 「お約束」が常に見える状態にあるため、正しい行動を意識出来た。

**【通常学級や家庭における成果】**

- ・文字学習に対する負担感が減少し、時間内に課題を終えることが出来るようになった。
- ・家庭学習の負担感が軽減され、登校渋りが減少した。



## B (2年男子)

### 【経緯】

入学当初より教室の飛び出しや学習の遅れなどが目立ち、1年2学期から巡回指導による通級指導を週一度受けることとなった。進級時自校に通級指導教室が設置され、2年1学期より週1時間自校通級で自立活動を行っている。

### 【困難の内容】

- ・自分の気持ちを相手に端的に伝えることが難しい
- ・相手に分かってもらえないことで対人面でのトラブルが増え、自己肯定感が著しく低い
- ・既習事項の定着が難しい

### 【具体的活動】



YouTube



safari

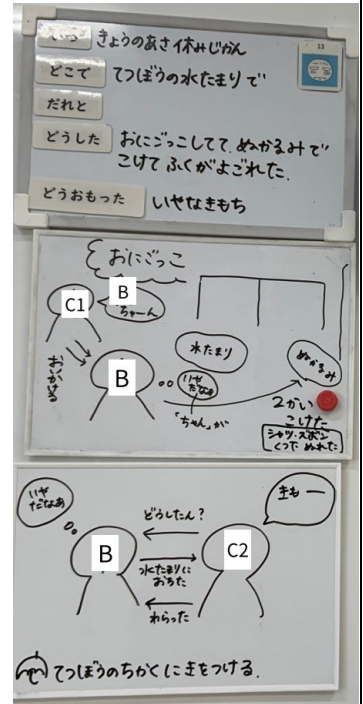


eboard

- ・コミック会話
- ・5W1H
- ・表情カード
- ・スケジュールボード

### 【個別指導での成果】

- ・その日あった出来事や気になる事象をコミック会話を用いてホワイトボードにまとめた。可視化されることで共通理解が得やすく、確実に相手に伝わったと納得できているようであった。
- ・コミック会話で完成したボードを元に、表情カードと5W1Hの札を使って別のホワイトボードに文章にまとめる訓練も行った。思いついたことから話してしまうため時系列や順序がバラバラで相手に伝わらなかったものが整理された。「いつ」「どこ」「だれ」などの単語がないと会話が伝わりにくいことを実感できた。
- ・分からないことがあるといつまでも気にしてしまうため、『safari』や『YouTube』などを使って調べる活動も逐一行った。納得すれば次の作業に移ることができる自分にも気づくことができた。
- ・既習事項も時間が経つと思出しにくいいため、『eboard』を紹介し家庭学習に活用するよう勧めた。解説動画があるため、家庭学習でも使いやすい。



ホワイトボードを利用した聞き取り。▷  
時系列や5W1Hを意識して話すことができ、記憶の整理にも繋がる。

### 【通常学級や家庭における成果】

- ・落ち着いて話せば相手に分かってもらえるという経験を積んだことで、学級で起こったトラブルの話し合いがスムーズに進むようになった。
- ・学級に「いつ」「どこで」などの札やホワイトボードが準備されているので、落ち着いて話せないときなどに札やボードを頼りに話すこともできるようになった。

## C (2年男子)

### 【経緯】

2年2学期中頃、意思表示が難しく会話に乏しいことや活舌が悪く書字に影響していることなどを担任から相談を受けた。通級指導教室にて週1時間自立活動を行っている。

### 【困難の内容】

- ・サ行の発音が不明瞭であり、本人にも自覚がある
- ・話し出すまでに時間がかかり、その間追加で声掛けがあるとさらに混乱し発語できなくなる
- ・特殊音節が未習得

### 【具体的活動】



ことばのトレーニング



カメラ機能



ロイロノート

- ・コミック会話
- ・5W1H
- ・舌の体操、ストロー（構音指導）
- ・拗音体操

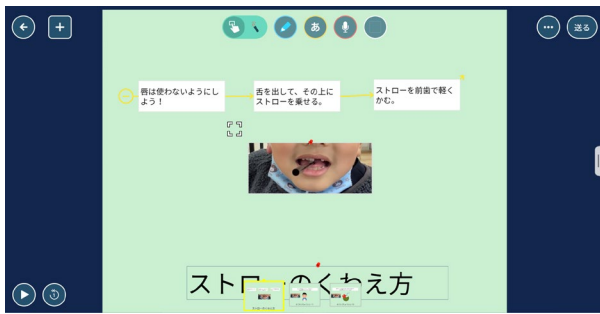
### 【個別指導での成果】

- ・話し出すまでに時間がかかってしまうため、学級では「意見を持たない」と捉えられていた。しかし、個別指導の場において話し出すまでじっと待ったところ、想像以上に内側に思いや考えを持っていることが判明した。当初は話し出すまでに数十秒かかっていたが、場に慣れ安心感が増したことで、話し出すまでの時間も数秒程度と短縮された。
- ・「θ」の発音に不明瞭さがあるが、気を付けて話すことで改善されることもある。家庭で気に入ったものがある場合に「ビ

デオに撮って送って」とリクエストしたところ、音声解説つきで録画してきてくれた。ゆっくり丁寧に話すことを意識したことで「θ」の発音が明瞭にできていたことを客観的に確認でき、本人のやる気につながった。

・家庭でも練習がしたいという希望を受け、家でできるトレーニングをロイロノートにまとめて配布した。一緒に写真を撮りながらスライドを作成したことでやる気につながった。

・アプリを活用して楽しく学習したことで、拗音・長音に関しては習得しつつある。



◁ ロイロノートを使って作成した、家庭でできる構音トレーニング用の手引書。

#### 【通常学級や家庭における成果】

・本人の特性を担任が知ったことで、話し出すまでじっくり待ってもらえるようになった。緊張から話す機会が減っていた本児であったが、教室内でのびのびと過ごすことができるようになった。

### D (2年男子)

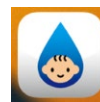
#### 【経緯】

2年2学期末、漢字が覚えられないことや全体指導での指示が通らず周囲と活動に差が出てきていると担任から相談を受けた。3学期より通級指導教室にて自立活動を行っている。

#### 【困難の内容】

- ・板書に時間がかかる
- ・想起して書くことが難しい
- ・「読むこと」が難しく、音読に時間がかかる
- ・特殊音節が未習得

#### 【具体的活動】



DropTap



カメラ



しゃべる教科書



ことばの  
トレーニング

- ・5 W I H
- ・コミック会話
- ・眼球運動
- ・拗音体操
- ・アクセシビリティの読み上げ機能

#### 【個別指導での成果】

・聞き取りにおいて「見て書こうと思ってすぐ忘れちゃう」との発言があった。黒板をそのまま写した場合と写真に撮って手元に置いて写した場合（無意味配列ひらがな6字）を比べた結果、「写真の方が書き易い」との印象を持っていた。かかった時間も20秒程度の差があったことから、『書くのが遅い』わけではなく『遠くのものを見て書くのが大変』であるという自身の困難に気づくことができた。

・音読への負担感もあったため、『しゃべる教科書』を活用した。「聞く」→「一緒に読む」→「一人で読む」という練習方法を提示したところ、教師の指導を待たずに自身で使い方を工夫しながら家庭学習で使用するようになった。若干の読み間違いは見られるものの、従来よりも音読に対する負担感が軽減された。

・音声読み上げが負担感の軽減に有効であるため、『DropTap』を使用した読み上げスケジュールを作成した。読める単語も多くあるが、不安を感じた際に読み上げを使用して確認できることが安心感につながった。

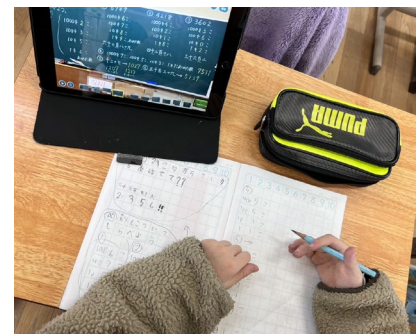
・アプリを活用して楽しく学習したことで、特殊音節に対する苦手意識が軽減されつつある。

#### 【通常学級や家庭における成果】

・必要に応じて黒板を写真に撮り手元に置くことで、板書にかかる時間が短縮された。

・当初は教師が撮影したものを本児に送信していたが、教師の撮影を待たずに自分で撮影し活用できるようになった。

・板書量が多い場合など、学級の他の児童に対しても希望者や学級全体に教師が写真を配布することがある。少しの工夫で児童の負担が軽減されるということを担任に認識してもらうことができた。



通常学級にて、撮影した写真をタブレットに表示しノートに記入する様子△

## E (4年女子)

### 【経緯】

3年次より学力不振を心配し保護者から相談があった。4年2学期の個人懇談において支援学級についての相談が再度あったため、3学期より通級指導教室にてアセスメントと共に週1時間自立活動を行うこととなった。

### 【困難の内容】

- ・想起して書くことが難しい
- ・桁数の多い計算でケアレスミスが生じる
- ・学習からの逃避や、諦めが生じている
- ・周囲との違いに敏感になり、自分に自信が持てない

### 【具体的活動】



ロイロノート



新筆順辞典

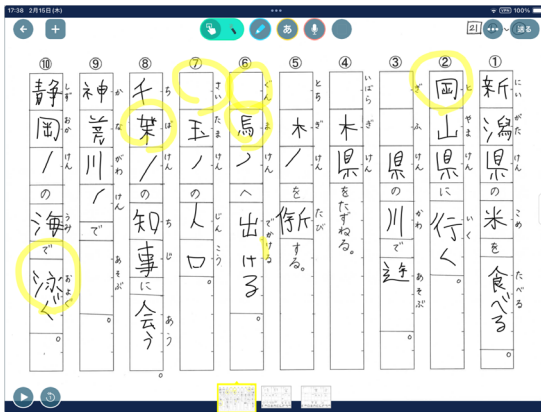
- ・5W1H ・コミック会話
- ・読み書きが苦手な子どもへの基礎トレーニング
- ・テスト用紙、計算用紙の作成

### 【個別指導での成果】

・「読めるけど書こうとするとあやふやになる」など、困り感の言語化ができた。通級指導教室が困り感に対して対処法を考えていく手助けをする場であることを伝え、当初通うことに対して不安感が強かったものが軽減された。

・『読み書きが苦手な子どもへの基礎トレーニング』内の漢字パーツ用紙を使用し、漢字をパーツに分けて唱えながら書く方法を試してみたところ、『静』が『青』と『争』でできているという事実初めて気づくことが出来た。この方法を活用して学習した漢字テストにおいて、10分の学習時間で80点を取ることが出来た。

・『ロイロノート』に漢字パーツを使用した学習用紙や練り上がりが記入しやすい計算用紙など、児童の負担軽減につながる資料をデータ化して資料箱内の『お助けボックス』フォルダに保存した。印刷せずともカードを複製することでいつでもデータを使用して学習できることを確認し、今後の家庭学習に生かしていくことを提案した。



△誤答の中から覚えられそうな漢字をチェックし、漢字パーツを利用して覚える学習法を提案した。  
ロイロノート内にデータ化して保存しているため、必要に応じて複製し何度も利用できる。

### 【通常学級や家庭における成果】

・本児用に作成した漢字テスト様式が、学級でも使いたい人が自由に使えるツールとして配布された。周囲との違いに敏感になる本児への配慮だけでなく、他の困り感を内在する児童への配慮となった。

### 【まとめ】

通級指導教室設置初年度ということで分からないことも多く、手探りで活動してきた。週に一度、たった1時間という中でできることは限られていたが、児童の「分からない」「困った」に寄り添う気持ちだけは忘れないようにしようと努めた。多くの困り感はすぐに解決できるものではなかったが、「困っている自分に気づいてもらえた」と感じる事が安心感への第一歩なのだ痛感した一年だった。

児童の困り感はずっと担任と共有した。児童の「やらない」「できない」が怠惰や努力不足から来るものではなく、困り感から生じた産物であるという認識は、関わった先生方の多くに持ってもらえたと感じている。そのことが学級での過ごしやすさにつながり、問題行動の減少など目に見える成果につながることも少なくなかった。しかし、それはあくまでその児童固有のもので、それぞれのための方略はあくまでその児童専用のものと考えている先生も少なくない。

困り感通級指導教室に通う児童だからあるのではなく、誰もが大きなり小なり持っているものである。それぞれの困り感を躊躇なく表出させることのできる安心感に基づいた環境を作り、解決策を共に模索できるようになっていければと思うが、実行できるかどうかは個人の力量に左右されてしまう。魔法のプロジェクトで学んだことを学校全体に広げ、すべての子どもたちが安心して過ごせる学校を目指していきたい。

